

2025 年

一級建築士 設計製図の試験「課題の概要説明会」

課題名 庁舎

- I. 学科試験の結果
- II. 課題の分析
- III. TACオリジナルプラン
- IV. 合格のために不可欠な要素
- V. TAC設計製図コース講座について
- VI. 開講までの準備

資格の学校
TAC

I. 学科試験の結果

■総得点

87点

■科目基準点

計画 **10** 点、環境 11 点、法規 16 点、構造 **15** 点、施工 13 点

- ・上記は、TACが独自に集計しているデータリサーチを基に推定したものです。
- ・以下に令和4年、5年、6年のデータと今年のデータを掲載します。

	TACデータリサーチ結果 (平均点)						本試験 合格基準点
	計画	環境・設備	法規	構造	施工	総得点	総得点
令和4年	14.7点	15.6点	23.1点	21.9点	16.0点	91.2点	91点
令和5年	13.7点	12.9点	22.6点	22.0点	17.1点	88.4点	88点
令和6年	13.0点	15.2点	23.4点	23.6点	18.6点	93.8点	92点
令和7年	12.4点	13.4点	23.0点	18.8点	16.0点	83.5点	9月3日発表

- ・令和7年TACデータリサーチ結果は、令和6年までの集計方法に合わせてTAC受講生に絞って集計したものを掲載しています。
- ・昨年に比べて約10点総得点が低く、予測が付かない領域であることから、平成21年に新試験制度が始まって以来、最も総得点が低かった平成23年、29年、令和3年の87点をTAC合格推定点といたします。
- ・令和4年、5年、6年とも科目基準点の補正はありませんでしたが、今年は上記のとおり計画、構造の平均点が極めて低いことから、この2科目については補正される可能性があると考えます。
- ・上記の合格推定点にわずかに達しない方については、学科試験に合格した後、5回のうち任意の3回の設計製図試験を受験できることを踏まえて、合格に自信が持てず中途半端な気持ちで設計製図試験対策を始めるよりは、9月3日の学科試験の合格発表を待って、めでたく合格された際に翌年の設計製図試験に向けて課題発表前の早期から対策を始めるという選択肢もありますので、ご検討ください。
- ・また、次の制度もご確認ください。

TAC設計製図本科生特別返金制度

令和7年学科試験の合格発表日(9/3予定)から3日以内の解約申し入れにつきましては、TACが公表した合格推定点(87点)から2点以内、つまり**85点以上**の場合はお支払いの設計製図本科生受講料から¥30,000を除き返金します(入会金は除く)。

- Memo -

Ⅱ. 課題の分析

■課題名

庁 舎

■要求図書

- ・ 1 階平面図・配置図（縮尺 1/200）
- ・ 各階平面図（縮尺 1/200）
※各階平面図については、試験問題中に示す設計条件等において指定する。
- ・ 断面図（縮尺 1/200）
- ・ 面積表
- ・ 計画の要点等

■建築物の計画に当たっての留意事項

- ・ 敷地の周辺環境に配慮して計画する。
- ・ バリアフリー、省エネルギー、二酸化炭素排出量削減、セキュリティ等に配慮して計画する。
- ・ 各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とする。
- ・ 大地震等の自然災害が発生した際に、建築物の機能が維持できる構造計画とする。
- ・ 建築物全体が、構造耐力上、安全であるとともに、経済性に配慮して計画する。
- ・ 構造種別に応じて架構形式及びスパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法の部材を計画する。
- ・ 空気調和設備、給排水衛生設備、電気設備、昇降機設備等を適切に計画する。

■注意事項

「試験問題」及び上記の「建築物の計画に当たっての留意事項」を十分に理解したうえで、「設計製図の試験」に臨むようにしてください。

なお、建築基準法等の関係法令や要求図書、主要な要求室等の計画等の設計と条件に対して解答内容が不適合又は不十分な場合には「設計条件・要求図面等に対する重大な不適合」等と判断されます。

公表内容の分析

1. 「要求図書」について

「要求図書」の公表内容は、昨年と全く同じです。

平面図については、「各階平面図については、試験問題中に示す設計条件等において指定する。」と示されました。これは**計画建築物の階数**が、試験当日に「**課題文で示される**」または「**課題文にも示されない(階数自由)**」ということになります。建築物の階数が試験当日まで分からないというのは、令和2年から6年続いて示されているので「**近年の定番**」です。どんな階数の建築物でも対応できるような対策が必要でしょう。また、平面図は3面求められることが多いので、このような要求の場合は、次のようなパターンが考えられます。

- | |
|-------------------------------|
| ① 「1階平面図・配置図」「2階平面図」「3階平面図」 |
| ② 「1階平面図・配置図」「2階平面図」「基準階平面図」 |
| ③ 「1階平面図・配置図」「基準階平面図」「最上階平面図」 |

2. 「建築物の計画に当たっての留意事項」について

「建築物の計画に当たっての留意事項」の公表内容も、昨年と全く同じです。

この部分は抽象的な内容ではありますが、採点に大きく関わる非常に大事なところです。「注意事項」にあるとおり、「十分に理解したうえで」試験に臨まなければなりません。

さらに、昨年追加された「大地震等の自然災害が発生した際に、建築物の機能が維持できる構造計画とする。」の一文に対しては、免震構造をはじめとした構造計画に関する対策もしておくべきでしょう。

3. 「注意事項」について

「注意事項」の公表内容も、昨年と全く同じです。

建築基準法令等の関係法令や要求図書、主要な要求室等の計画等の設計と条件に対して解答内容が不十分な場合には、「設計条件・要求図面等に対する重大な不適合」、つまり「失格」と判断されるので注意が必要です。

以上、上記3項目については昨年の全く同じ公表内容でした。

用途の分析

今年度の「庁舎」は、設計製図試験の用途としてはかなり久しぶりの出題となります。過去に「地方公共団体の庁舎」という課題が平成2年に出題されましたが、30年以上も前の出題であることから、設計製図の試験としては対策の立てにくい用途であると言えるでしょう。なお、建築設備士の二次試験（設計製図）では、平成30年「小都市に建つ市庁舎」、平成21年「市民ホールを併設した市庁舎」が出題されたことがあります。

（※この資料では、主に「市庁舎」として説明していきます。）

1. 庁舎とは

「庁舎」は、主として市民が来庁して様々な行政サービスを受ける場です。

地方公共団体の庁舎とすると、町村庁舎、市庁舎、県庁舎等がありますが、設計製図の試験の出題規模からすると、市庁舎等の中規模程度の建物（3～7階建て）が想定できます。建物の階数も未定であることから、基準階タイプを中心として、近年出題の多い「階数自由」の課題にも対応できるように、幅広い学習が必要になります。

2. 庁舎に求められるもの

1970年代前後に建設された庁舎の多くは、施設の老朽化に伴う維持管理負担の増大、耐震性能の不足、防災機能の不足、バリアフリー化の不足といった様々な問題をかかえ、建て替えや改修の需要が増加しています。

現在の庁舎には、市民に開かれた施設としてだけでなく、防災拠点として災害時のBCP（事業継続計画）への対応、環境への配慮（ZEB化、再生可能エネルギーの活用等）、ユニバーサルデザインへの対応等、様々な要素が求められるでしょう。

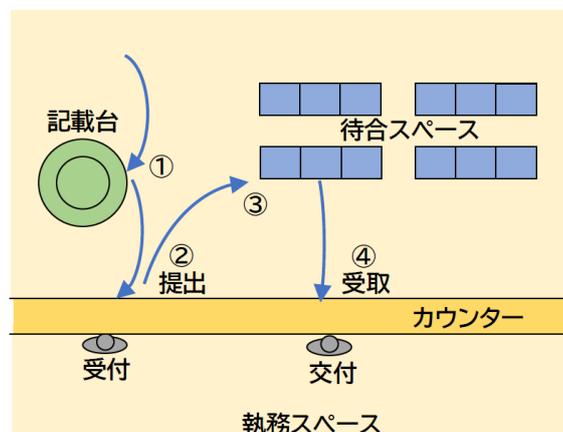
3. 試験で想定される主要室

(1) 執務スペース(執務室)及び待合スペース

執務スペースは、来庁者の応対をするスペース、一般事務を行うスペース等を考慮すると、奥行きは1スパン以上確保したいところです。また、見通しのよい空間とし、柱を立てない空間が望ましいです。

・届出の処理や証明書の発行等の窓口

①記載台で必要な書類に記入→②受付カウンターへ提出→③書類が完成するまで待合スペースで待つ→④完成した書類を交付カウンターで受け取る、といった動線の流れとなります。



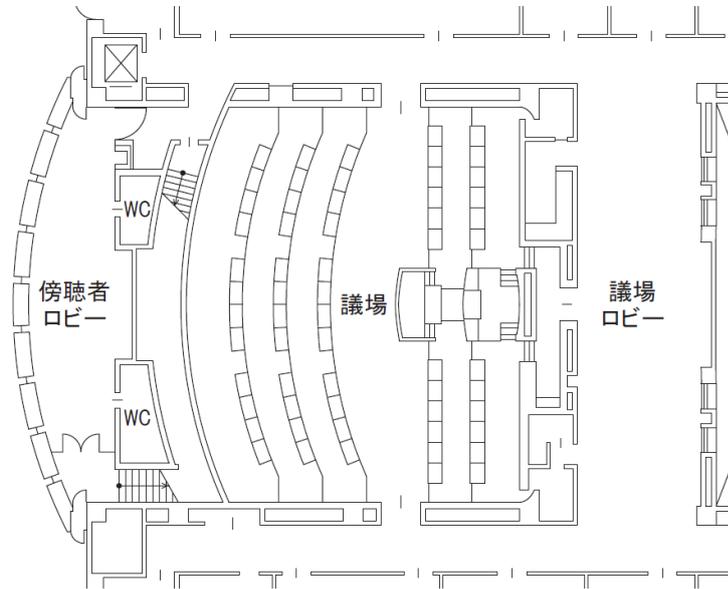
・市民相談、福祉相談等、苦情相談、陳情等を受ける窓口

個別に相談するための相談コーナーや相談室が付属するケースもあります。

(2) 議会部門(議場)

議場は、市町村長と議員が一堂に会し、政策を決める場です。一般の室よりも高い天井高の無柱空間とすることが適切であり、段床形式での計画も想定されます。

なお、傍聴者と議会部門（議員）の動線は、明快に分けて計画することが適切です。

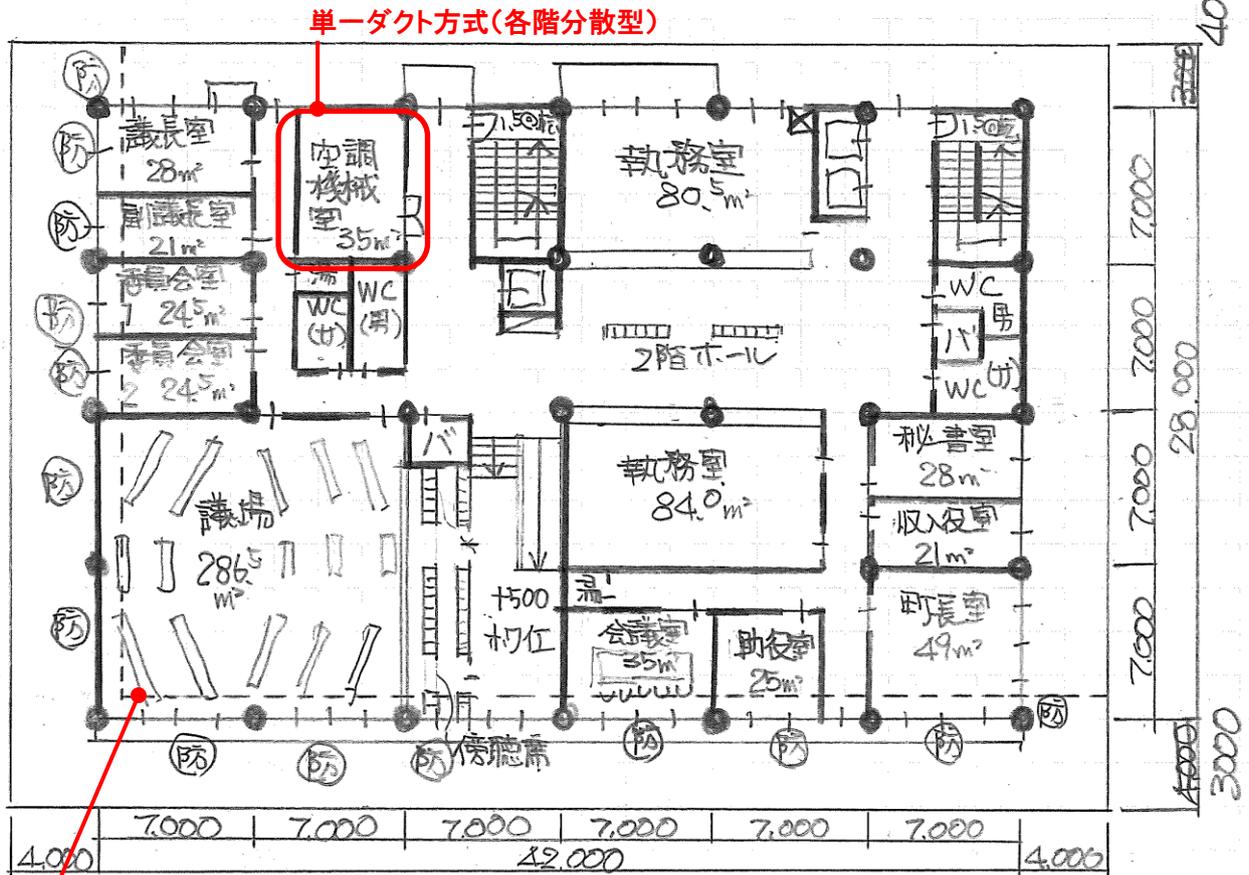
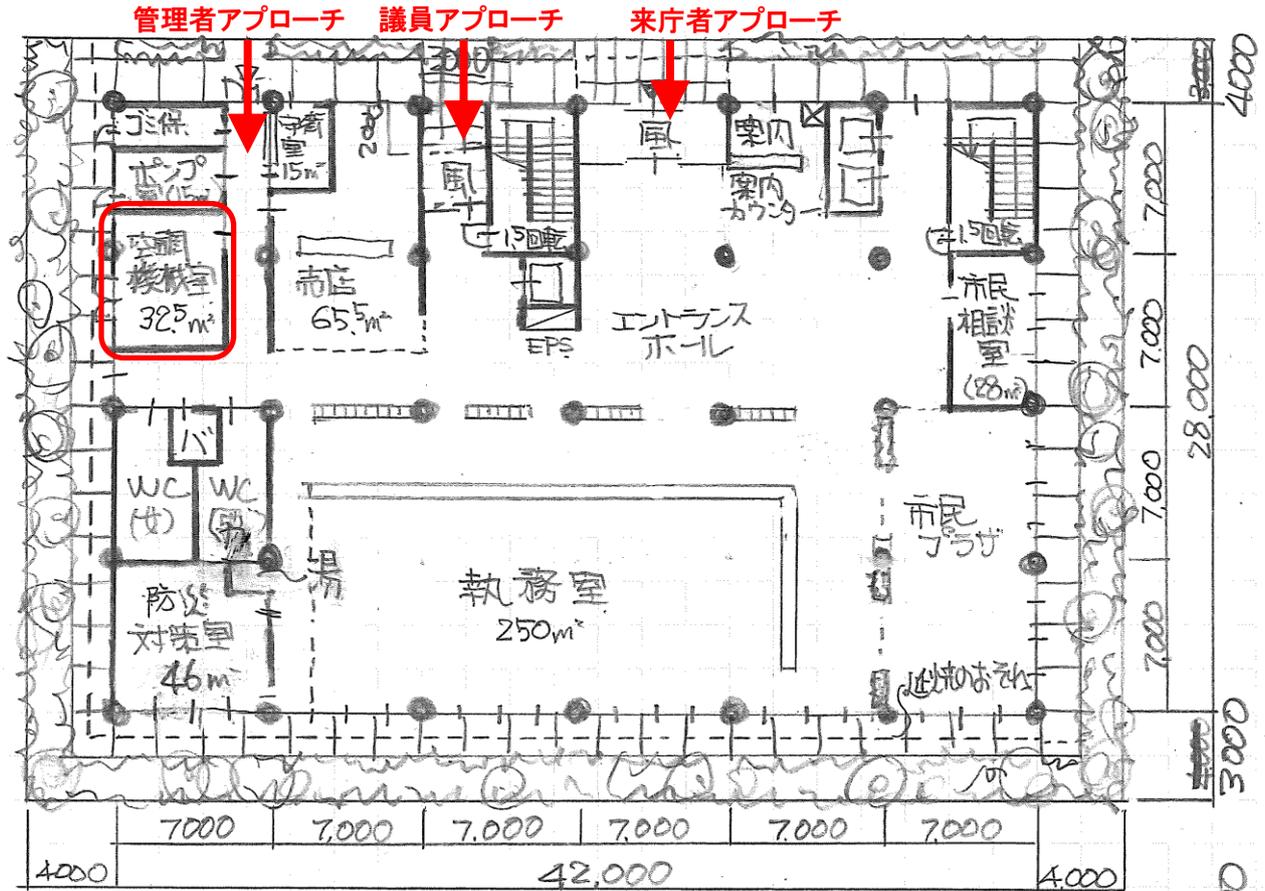


4. 法規について

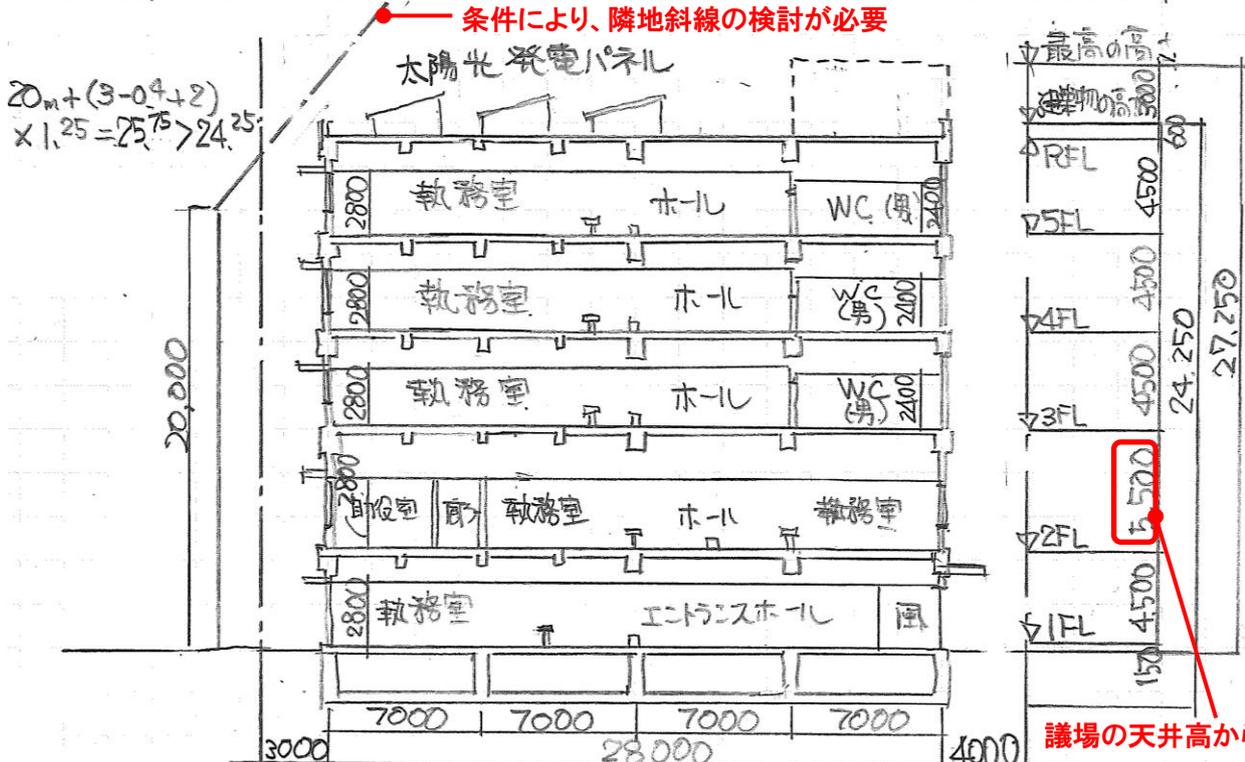
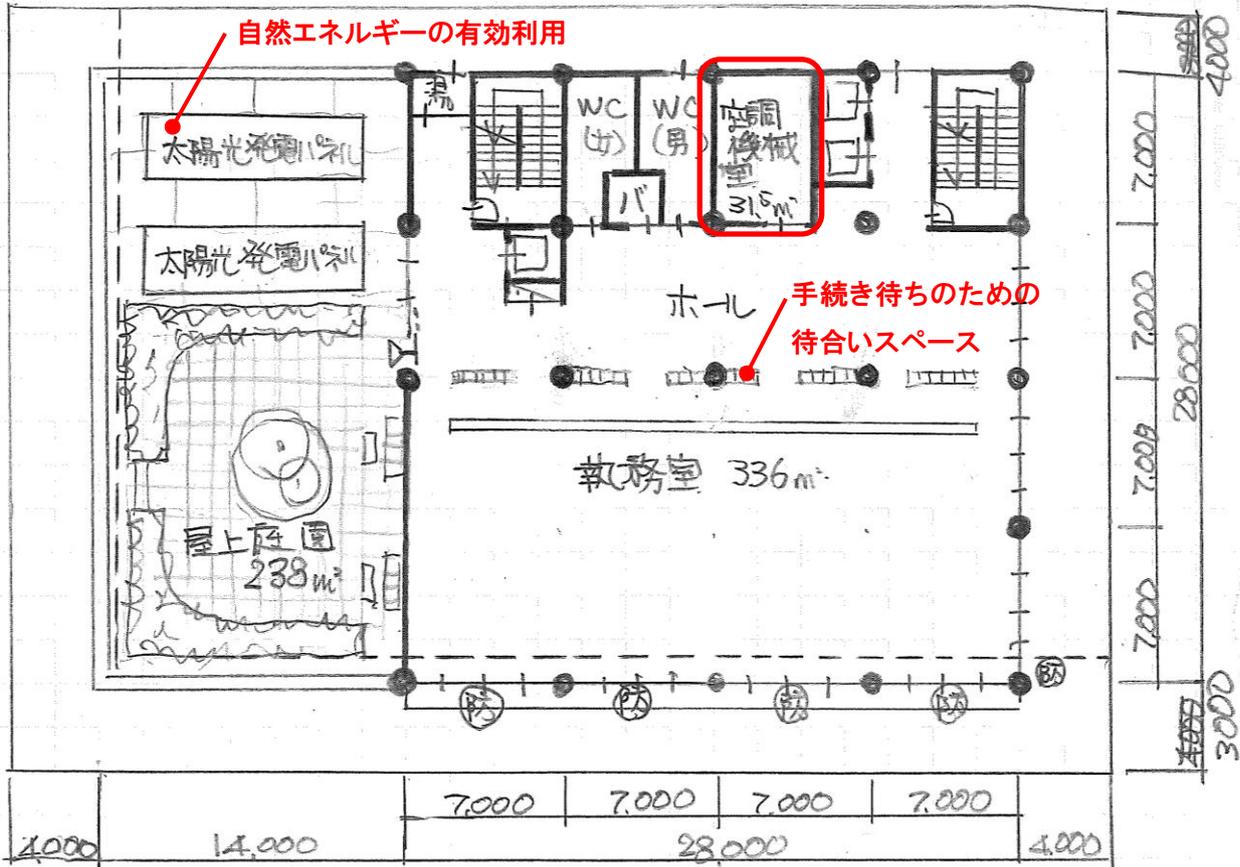
今年度も「建蔽率」、「容積率」、「高さ制限（道路斜線等）」、「延焼のおそれのある部分」、「防火区画」、「避難規定（歩行経路、歩行距離、重複距離、敷地内通路）」等についての適合が求められるでしょう。毎年、多くの受験生が法規ミスを犯して「失格」となってしまいうことから、法規の対策は徹底しておくべきです。

なお、庁舎は延べ面積 1500 m²超の場合、低層住専、田園住居、中高層住専の用途地域には建築することができません。設計製図の試験では 1500 m²超の規模に該当するため、今年度は北側斜線の出題はないことがわかります。

Ⅲ. 令和7年一級建築士設計製図【庁舎】TACオリジナルプラン（暫定版）

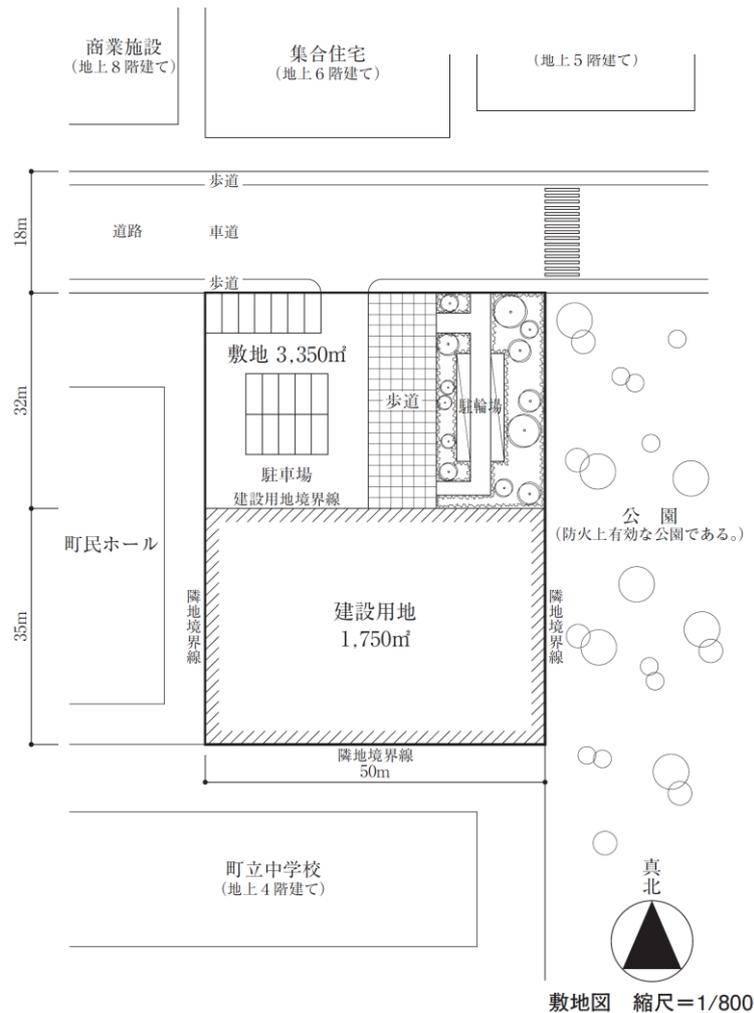


議会エリアはまとめてゾーニングし、執務エリアと明快に分離



$20m + (3-0.4+2) \times 1.25 = 25.75 > 24.25$
 建築面積 $42 \times 28 + 3 \times 1 + 7 \times 1 = 1.186$
 3F $28 \times 28 \times 3 = 2.352$
 2F $42 \times 28 = 1.176$
 1F $42 \times 28 = 1.176$
 4.704 m²

【※TACオリジナルプランの敷地条件】



IV. 合格のために不可欠な要素

1. 課題文の読み取り力

要求された条件に対し適切に解答するには、課題文を正しく読み取ることが不可欠です。マーカー等により、読み落としや読み間違いをなくす対策が重要となります。

2. ゾーニングと動線計画が適切なプランニング力

設計製図試験では、空間構成で足切りにすると明示されています。ここで空間構成とは、ゾーニングや動線計画あるいは建築物の立体構成を指すと考えられます。

3. 作図における表現力とスピード

過去の合格者は、本試験までの期間に少なくとも20枚以上の答案を作成しています。作図については、表現力とスピードをアップするため、ある程度の練習量をこなすことが合格には不可欠です。

4. 図面と整合した計画の要点を記述する力

計画の要点は、「問われたこと」に対して、「図面と整合した内容で記述すること」が最低限求められます。事前に記述の要領を覚え、明快な文章を書く練習をしておく必要があります。

5. 図面を自己チェックする力

自分の計画、図面に漏れ落ちがないか、チェックすることが合格に不可欠です。とくに、「法令違反」は即「失格」となるので、絶対に落としてはいけません。

V. TAC設計製図コース講座について

1. TACの指導方針

① **完全消化できる厳選した課題を提供する。**

上記で述べた作図力、プランニング力、チェック力を付けるために、一つ一つ確実に消化できる練習課題を提供します。一つの課題についてプランB、プランCと何度もやり直す（リトライする）ことによって、本当のプランニング力が養成されます。

② **サプライズを当てにいかない。**

「設計条件を簡素化（シンプル化）する」という新試験制度に基づき、練習課題はオーソドックスな内容とし、奇抜な条件の設定はしません。

③ **一貫したプランニングの定石を指導する。**

「設計の自由度を高める」という新試験制度に基づき、練習課題は基本的なプランニングが学習できる内容とし、定石が通用しないような設定はしません。

④ **ゾーニング・動線計画を徹底指導する。**

プランニングの軸となるゾーニング・動線計画については、利用者の視点に立った全体構成に重点を置き、細部にこだわらない指導を徹底します。

⑤ **メリハリのある作図表現を徹底指導する。**

図面の印象度は線種の使い分けにより左右されます。文字を含めて図面がメリハリのある表現となるような指導を徹底します。

2. 開講コース

① スケジュール・講義内容等

2025年合格目標 一級建築士 設計製図本科生日程表

ご注意ください

- 教室講座 講義時間 9:30~19:00
- オンラインライブ通信講座 講義時間 9:00~18:30

無料体験可能 (要予約) (製図用具必要)

※教室講座は、定員に達し次第、申込締切とさせていただきます。
締切になったクラスは無料体験できません。
※オンラインライブクラスは無料体験はお受けしていません。

オンラインライブ
クラス生へのご案内

<プレ講義を開催します> 7/30(水) 13:00~16:00

使用する学習プラットフォーム: Schoo Swing (スクースウィング) の操作方法やクラス運営についての説明会です。
※参加方法は、7月上旬までにTAC WEB SCHOOLマイページ「講座からのお知らせ」に掲載いたします。

回	日程						課題	講義内容(予定)	製図用具
	土曜クラス	日曜クラス	水曜クラス	Web視聴開始日	Web通信教材発送日	オンラインライブ教材発送日			
1	8/2(土)	8/3(日)	8/6(水)	8/8(金)	8/6(水)	8/1(金)	課題1	・試験概要、当年度課題の特色、構造・設備の基礎知識 ・製図用具の使い方、基礎製図、作図手順(平面図・断面図) ・作図練習課題を使った作図練習(トレース)	必要
2	8/9(土)	8/10(日)	8/13(水)	8/15(金)	8/12(火)	8/8(金)	課題2	・法令の留意点を学習する・課題文の読み取りポイント、作図表現上の注意点を学習 ・文章表現の意味、計画の要点記述の書き方の学習 ・巡回指導・宿題返却指導	
3	8/16(土)	8/17(日)	8/20(水)	8/22(金)	8/21(木)	8/14(木)	課題3	・課題文のマーカ―の仕方、読み取り ・エスキスの仕方、エスキス実習、作図実習 ・巡回指導・宿題返却指導	
4	8/23(土)	8/24(日)	8/27(水)	8/29(金)	8/27(水)	8/21(木)	課題4	・採点ポイントの理解・自己チェックの養成 ・エスキス実習→自分のエスキスからの作図実習 ・巡回指導・宿題返却指導	
5	8/30(土)	8/31(日)	9/3(水)	9/5(金)	9/3(水)	8/28(木)	課題5	・プランニング・作図力の向上と作図時間の短縮を目指す ・巡回指導・宿題返却指導	
6	9/6(土)	9/7(日)	9/10(水)	9/12(金)	9/10(水)	9/4(木)	課題6	・模擬試験(1)による実力確認	
7	9/13(土)	9/14(日)	9/17(水)	9/19(金)	9/17(水)	9/11(木)	課題7	・プランニング・作図力の向上と作図時間の短縮を目指す ・巡回指導・宿題返却指導	
8	9/20(土)	9/21(日)	9/24(水)	9/26(金)	9/24(水)	9/18(木)	課題8	・模擬試験(2)による実力確認	
9	9/27(土)	9/28(日)	10/1(水)	10/3(金)	10/2(木)	9/25(木)	課題9	・プランニング・作図力の向上と作図時間の短縮を目指す ・巡回指導・宿題返却指導	
10	10/4(土)	10/5(日)	10/8(水)	10/8(水)	10/6(月)	10/2(木)	課題10	・課題10のエスキス+作図実習 ・巡回指導・宿題返却指導 ・直前確認事項と総復習	

土曜クラス: 仙台校・水道橋校・新宿校・池袋校・渋谷校・横浜校・名古屋校・京都校・梅田校・なんば校・広島校・福岡校
日曜クラス: 札幌校・水道橋校(新設)・新宿校・早稲田校(新設)・池袋校・八重洲校・立川校・町田校・横浜校・日吉校・大宮校・津田沼校・
名古屋校・京都校(新設)・梅田校・なんば校・神戸校・広島校・福岡校
水曜クラス: 新宿校・梅田校・オンラインライブクラス

- カリキュラム、発送日程、課題数は、発表される課題内容や試験分析に基づき変更となる場合があります。
変更の場合はTAC WEB SCHOOLマイページにてお知らせいたします。

【一般教育訓練給付制度をご利用の方へ】

修了試験(Web修了試験)は、TAC Web School上「学習フォロー」>「Web答練」で実施します。

【実施期間】2025年8/22(金)~9/15(月)

▶【Web通信生・オンラインライブ生限定】オンラインスクーリング ※担任: 大屋講師

「ひとりでは製図対策を進めるのは不安」「他の人はどのくらいのレベルなの?」「質問や相談に即時で答えてほしい」等、通信生には色々な不安や悩みがあると思います。TACでは通信生にも担任制を導入し、課題発表後から2週間に1回程度のペースでオンラインスクーリングを実施します(Zoom)。

他の受講生の答案を共有しながら作図やエスキスのポイント、ミスしがちなところを解説し丁寧に課題のフォローアップを図ります。そして終了後は、毎回質問会も開催!みなさんのお困りごと解消&モチベーションUPの後押しができればと考えておりますので、本試験まで一緒に粘り強く取り組んでいきましょう!

【参加方法】実施前日までに、TAC WEB SCHOOLマイページトップに、参加用のURLを掲載いたします。

【準備物】インターネット通信環境、Zoomが使える端末(スマートフォン、タブレット端末、パソコン等)

回数	日程
第1回	2025年 8/13(水) 19:30~
第2回	2025年 8/27(水) 19:30~
第3回	2025年 9/10(水) 19:30~
第4回	2025年 9/24(水) 19:30~
第5回	2025年 10/8(水) 19:30~

※日程変更等の場合はTAC WEB SCHOOLマイページにてお知らせいたします。

② 受講料・割引制度・返金制度

教室講座 319,000 円 (税込・教材費込)

Web 通信講座 242,000 円 (税込・教材費込)

各種割引制度 (設計製図コース)

インターネット申込 (e受付) でご利用いただける割引制度は一部に限ります。
詳細はe受付サイト「割引について」をご確認ください。

25 歳以下の方必見

再受講割引制度 同一級に限ります

通常受講料より

- 一級 30% 割引!
- 二級 40% 割引!

過去にTACで「総合設計製図本科生」「設計製図本科生」を受講されていた方が、再度「総合設計製図本科生」または「設計製図本科生」のどちらかを受講される場合、再受講割引が適用になります。

※他の割引制度との併用はできません。

アンダー25コースについて

通常受講料より **¥22,000 割引!**

講座お申込み時点で26歳のお誕生日を迎えていない方、または学生の方は、2025年合格目標「総合設計製図本科生」「設計製図本科生」の受講料を¥22,000割引します。お申込み時に身分証明書または学生証を確認します。

※早割・セット申込割引・学科生割引に対応したアンダー25コースもあります (右ページ)。
※他の割引制度との併用はできません (TAC取扱代理店 (大学生協・書店等) 割引は除く)。

返金制度について

開講前 返金

講座開始日前の解約の申し入れにつきましては、受講料全額を返金いたします (入会金¥10,000を除く)。

※教室講座は開講日、通信メディアは初回発送日の5営業日前に、解約申請が必要です。

設計製図本科生 特別 返金制度

※総合設計製図本科生は返金対象外です。

2025年学科本試験の合格発表日から3日以内の解約申し入れにつきましては、TACが2025年学科本試験翌日に公表した合格推定点からマイナス2点以上で不合格となった方に限って、¥30,000を除いた受講料を返金いたします (入会金¥10,000を除く)。

※申請の際には合否証明が必要です。

設計製図本科生 返金制度の概要 (総合設計製図本科性は特別返金対象外) 同一級に限ります



返金制度の 注意事項

※各返金制度の返金対象には、入会金¥10,000 (10%税込) は含まれません。
※各返金制度をご利用の方は、返金後は対象コースを引き続き受講できません。また、付随する教材類も返却していただきます (通信講座の方は発送済の教材類をお客様の送料負担でご返却いただきます)。
※各返金制度の振込手数料は、お客様負担になります。
※各返金制度の利用期限以降の返金については、申込規約にある当社規定に則り計算した金額を返金いたします (振込手数料はお客様負担)。
※各返金制度の詳細は、TAC各校までお問い合わせください。

③ 使用課題、教室における交換添削・持ち帰り添削について

講義回数	使用課題	グループ返却	自己チェック	グループ学習	講師による持ち帰り添削の内容
1	課題1 (作図練習課題)	—	—	—	持ち帰り添削はなし
2	課題2	—	—	—	添削評価シート（汎用版）による添削
3	課題3	—	—	—	
4	課題4	○	—	—	
5	課題5 応用課題5（宿題）	○	○	○	課題5用 添削評価シートによる添削
6	課題6 応用課題6（宿題）	○	○	○	模試専用添削評価シートによる添削 →4つの評価（A、B、C、失格）による判定
7	課題7 応用課題7（宿題）	○	○	○	課題7用 添削評価シートによる添削
8	課題8 応用課題8（宿題）	○	○	○	模試専用添削評価シートによる添削 →4つの評価（A、B、C、失格）による判定
9	課題9 応用課題9（宿題）	○	○	○	課題9用 添削評価シートによる添削
10	課題10	○	○	○	課題の持ち帰り添削はなし 当日の課題10は講義内でのエスキスチェックのみ

※各教室では、受講生最大15名に対して講師1名が担当し、巡回指導、添削、答案の返却指導等を実施します。

※課題1～10（作図練習課題含む）＋応用課題5～9＝全15課題です。

※教室講座、WEB通信講座いずれも、9課題が添削対象課題になります。

※教室では実習中の巡回指導、図面の添削・返却指導の他、添削済み図面のグループ返却、当日実習課題についての添削評価シートを使った自己チェック、当日実習課題完成後のグループ学習（グループディスカッション）等を通じて、他の受講生の作図やエスキスを見る機会、またミスの共有が可能です。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ①当日の実習前にミスを共有することで、同じミスを回避して実習ができる ②他の受講生の作図やエスキスを見る機会を設けることで学習効果が上がる ③自分の図面のチェックをすることに慣れる ④チェック項目の重要度を理解することで、計画や作図における優先順位を身に付ける ⑤受講生同士でコミュニケーションを取ることで、学習のモチベーションが上がる |
|--|

※各回の宿題は「実習課題のリトライ」及び「応用課題のエスキス（ある場合）」を基本とします。

※マイページの利用により、講義動画を復習で繰り返し視聴したり、分からない箇所について質問メールを送ることもできるほか、各課題一式がアップされるので、出力して何度も繰り返し課題を解くこともできます。

※「製図用具の使い方」、「作図手順の解説」、「超速作図法」、「作図タイムトライアル」など、レベルに合わせた作図動画をご用意しています。

VI. 開講までの準備

1. お申込みはお早めに（定員制のため、既に募集を締め切った教室もございます）

※マイページにアップされている「事前作図練習教材」、「作図動画」により、お申込み後、すぐに「作図の練習」を始めることができます。

2. 学習環境の確保

家庭での学習場所（TAC自習室も可）、家庭や職場の理解を得ることも大切です。

3. 製図用具の準備

- ・製図板を早めに購入すること。

マイページに「建築士製図用具セットご案内」が掲載されています。注文から納品まで1週間程度かかります。

セット に 同 封	テンプレート	TACオリジナル
	三角スケール	15cm（30cmもお奨め）
	三角定規セット	
	はけ	
	ドラフティングテープ	マグネットプレートはお奨めしない
	シャープペン	0.5 mm Bを標準とする
	ペン型消しゴム	
	シャープペン替え芯	
	字消し板	
電卓	プログラム機能を有しないもの（詳細は受験票を確認）	
道具入れ	※注意 下記参照	
フローティングディスク	定規とテンプレートの下面に貼って図面の汚れを防ぐ	
蛍光マーカー	ピンク、黄、緑、青の4色程度	
フリクションペン（赤・青・緑）	課題文チェック用、完成図の自己チェック用、教室での交換添削用	
ストップウォッチ	集中力を高める必須アイテム（試験会場へは持込禁止）	
A4ファイル	講義録の保管用	
タブレット用手袋	手汗等による図面の汚れを防ぐので、あると便利	
滑り止めマット	製図板の下面に敷き、机からの滑り落ちを防ぐ	

※令和5年試験より、試験当日の携行品に関して「携行できないもの」に「筆記用具等収納ケース」が新たに追加されたのでご注意ください（次頁参照）。

4. 「庁舎」について書籍やインターネットなどで各自調べてイメージしておくこと

5. 試験当日の「携行できないもの」の追加

資料6 筆記用具等収納ケースについて

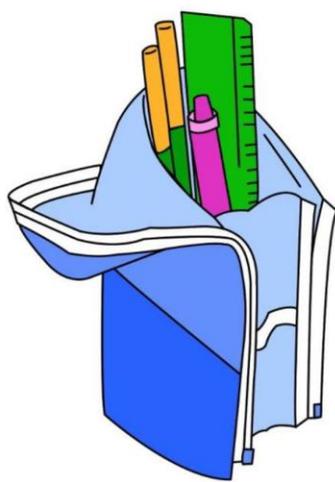
注 意

例示のようなペンケース、ファイルボックス等の筆記用具等を収納できるもの(機能が類似しているものを含む。)は、試験時間中には使用できません。机の上に置かず、かばんの中に入れてください。使用した場合には、退場を命じますので、十分注意してください。

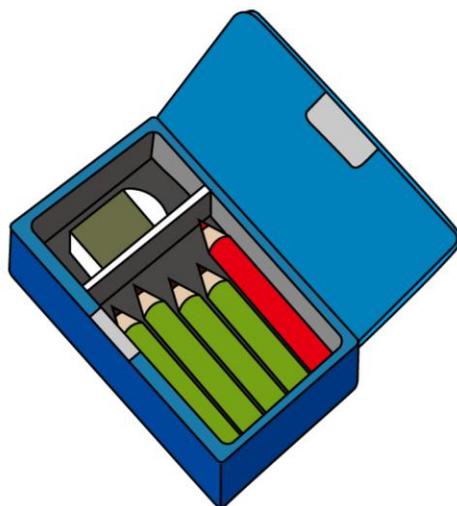
試験時間中は「必ず携行するもの」「携行できるもの」以外のものは、使用できません。

なお、衣類のポケット等を使用して、筆記用具等を収納する行為も不正行為となりますので、十分注意してください。

■筆記用具等収納ケースの例示



例 1



例 2



例 3



例 4



例 5

祈合格

適正な価格、質の高いコンテンツで、一緒に合格を勝ち取りましょう！